政治のホンマを伝えるチラシ

レオナンデス通信

www.nakanishireo.com/　2024年度 冬号　発行：中西レオ応援団

指定ごみ袋 なぜ必要？

明石市は各種ごみの減量・資源化に取り組んできました。地球環境の問題に加え、経費削減も大きな理由。２０３１年の新ごみ処理施設スタートまでに削減目標の達成を目指しますが、その手法の一つに指定ごみ袋制が計画されています。

指定ごみ袋とは

市が指定した袋で、ごみを出す制度。ごみ処理手数料を上乗せする有料化とは違い、ごみ袋代は現在の青い袋と同等と言われています。

減量が足りないの？

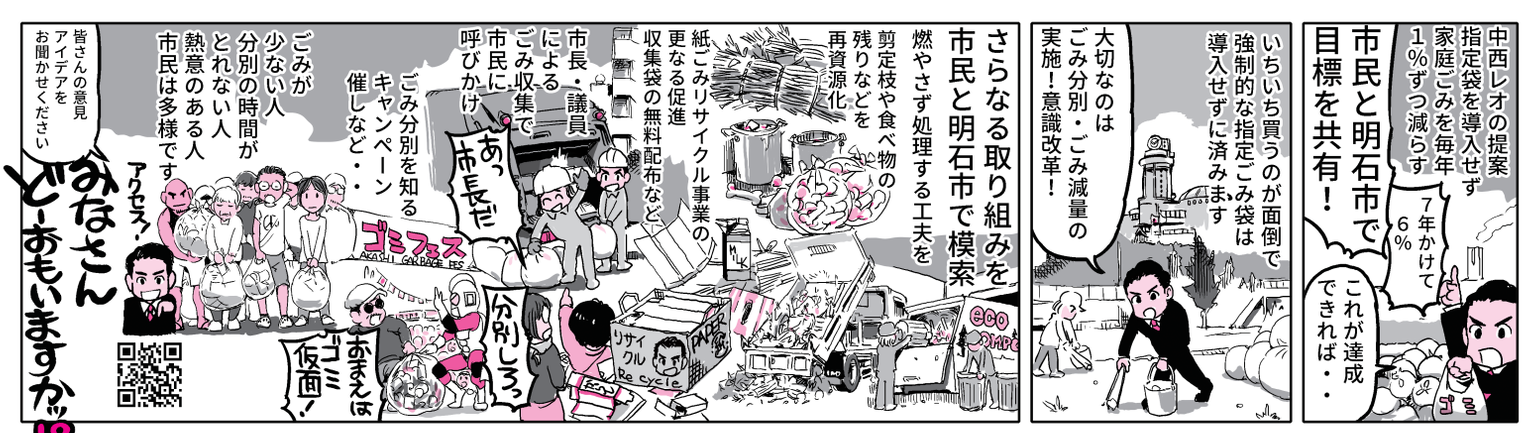
市はごみの分別・減量に取り組んできましたが、まだまだ減らす余地があります。特に生ごみの発生減・水切り・堆肥化、紙ごみの分別資源化を進めたいところですが、市民は関心のある人、そうでない人、関心はあるけど実行が難しい人など状況がさまざま。

中西レオは、市民に負担をかけて減量を強いる指定ごみ袋よりも、市民が自主的に頑張ってごみを減らそうと思える取り組みに力を尽くすべきという考えです。目的はごみ減量であって、指定袋は手段の一つに過ぎません。

いくら減らすか

計画では２０３１年度までに市全体の年間ごみ処理量を８万１千トンにする計画となっています。２０２３年度実績は８万７千トンですので、残り６千トンを７年かけて減らします。一人あたりの燃やせるごみ量は１日４４２ｇから４１１ｇへ。決して無理な目標ではありません。

事業ごみは現在焼却している学校給食の生ごみや食べ残し、樹木の剪定枝を再資源化することで大きく減量できます。

各家庭で１％減らそう

人口の増加を加味しても、毎年各家庭が燃やせるごみを１％ずつ減らせば、目標を達成できます。共創を掲げる明石市において、ごみ減量という身近なテーマを、市民と行政が同じ目標に向かって歩を進めるきっかけにしたいと考えています。